

P310b **宇宙研 1.3m 望遠鏡の再開発プロジェクト SURF と大学共同利用公募について**

宮川浩平, 河原 創, 宮崎翔太, 笠木 結, 片坐宏一 (宇宙研), 平野照幸, 小谷隆行 (ABC), 和田武彦 (NAOJ)

宇宙科学研究所は関東圏最大級となる主鏡径 1.3m の望遠鏡 (赤外線モニター観測装置) を有する。当該施設は、ここ数年間にわたる管理者の不在やシステム周りの老朽化によりユーザーがほとんどおらず、実質的な停止状態となっていた。しかし、国内 1.3m 望遠鏡というリソースは、系外惑星探査を含めた広い科学観測における活用が十分に期待できる。そこで我々は本年度より、望遠鏡自体のメンテナンスや新規観測カメラ装置の導入等を含めたプロジェクト SURF (Studies Using the Rooftop Facilities) として、施設の再開発計画の立ち上げを行った。本ポスター講演では、今年 2 月に実施した V 等級 10 等程度の惑星系のトランジット観測結果に基づいた測光精度や、新規測光装置 DOLPHIN (Device of Line Photometry in Nasmyth) の開発状況について報告する。さらに DOLPHIN を用いたトランジット惑星系の大気や恒星活動の観測など、系外惑星探査において現状検討可能なサイエンスについて紹介し、来年度の大学共同利用公募 (1 月中旬締め切り) に向けた情報周知を行う。